



データを誤って公開しないために (IRSME13011)

平成 25 年 7 月 22 日 原田長州

Google 社が提供する「Google グループ (以下、グーグルグループ)」は、メーリングリスト (特定のメールアドレスにメール送信すると、登録されているユーザー全員にメールが配信するサービス) とメール以外にもブラウザ上からも情報が閲覧・投稿できるサービスである。

2013 年 7 月 10 日付の読売新聞では、官庁内部のメールなどのやりとりが (設定の誤りに気づかず) 誰でも閲覧できる状態になっていたと報道されている。誤って公開されたデータには、官庁の内部データや医療機関の患者データ、各種の名簿などが含まれていたとされているが、一般の企業でも同様の危険を抱えているところは少なくないだろう。

■ 公開範囲設定の誤認識・公開/非公開の設定を確認する

グーグルグループは、初期設定ではすべてのやりとりが公開される設定になっていた。下図のように、グループの作成時に表示される[基本的な権限]の[トピックを表示]の設定が「すべてのユーザー」が選択されている状態だ。

基本的な権限	トピックを表示	ユーザーのグループを選択	すべてのユーザー
	これらのユーザーはこのグループのトピックを閲覧できます。		
	投稿	ユーザーのグループを選択	グループのすべてのメンバー
	これらのユーザーはこのグループにメッセージを投稿できます。		
	グループに参加	参加できるユーザーを選択	誰でも申し込み可能

※1. 【図 1】グーグルグループの権限設定画面。表示についての初期設定は、すべてのユーザーに公開されるようになっている。

この設定のままにしていると誰でも投稿内容を閲覧できるようになっていたのである。過去の投稿を公開する機能があるグーグルグループでは、この設定が重要な項目であり「すべてのユーザー」の示すところはすなわちインターネット全体であった。公開範囲を制限したかったユーザーが意図していた公開範囲は「**グループのすべてのメンバー**」を選択するのが正解であった。しかしこの設定は、詳細を設定するために他の選択肢を表示させないと見えないようになっていたため、思うところとは異なる公開範囲になってしまった原因の一つであろう。

グーグルグループを利用している場合には、グループの設定画面からこの設定状況を確認できる。もしくはより簡単で確実な確認方法として、Google アカウントからログアウトした状態でグーグルグループにアクセスをして確認すればよい。ログアウトをした状態で閲覧できてしまうのであれば、それはインターネット上のすべてのユーザーに公開されていることになるからである。グーグルグループに限らず、利用を検討しているサービスについては公開範囲などについてそれぞれで念入りな確認が必要である。近年は複雑な取扱説明を理解することなく直感的に利用できるのが売りのサービスが人気だが、十分な理解なく利用を開始し、重要なデータが漏出してからでは取り返しがつかないことは論を待たない。

■ 情報漏洩は繰り返されており先回りの対応を

システムの不具合ではなく、利用者による設定が適切に行われなかったことによる情報漏洩は、以前から繰り返されている。

- ◆ 教師が、家庭訪問に利用する意図で地図サイトにて児童宅位置情報を登録したところ、設定を誤り一般公開状態となっていた。
- ◆ 複数店舗を運営する企業でアルバイトを採用した際に、自宅から最も近い店舗を検討するために、応募者の自宅を地図サービスサイトに登録したところ、一般に公開された状態になっていた。

経営者は、なぜこのように官庁や企業では推奨されていない方法での情報・ファイル共有が行われてしまうのか、を検討する必要がある。社内に「(ある種類の/特定の) インターネットサービスの利用禁止!」と伝えたところで、スマートフォンの普及も進んだ昨今、実際には従業員一人一人の PC の利用を監視するということは現実的ではない。むしろ企業経営者として先回りで管理ツールを提供することが必要であろう。従業員がインターネット上のサービスを好き勝手に利用して、悪意なく情報が漏洩してしまうという危険性を防ぐという方法がまずはもっとも手堅い方法である。グーグルグループと同程度の社員間コミュニケーションが可能なグループウェアなどを導入することで、情報漏洩のリスクを経営者が適切に管理できている状態としたい。(了)